

今年は特に注意が必要 早めのインフルエンザ予防に協力を

インフルエンザワクチンでは新型コロナウイルス感染症を予防することはできません。しかし、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの流行期が重なる医療がひっ迫することが考えられます。インフルエンザワクチンはぜひ接種しましょう。

日本では、インフルエンザは例年12月～4月頃に流行し、1月～3月に流行のピークを迎えます。予防接種による効果が出るまでに2週間程度かかることから12月中旬までに接種しましょう。

インフルエンザや新型コロナウイルスは誰でもかかる可能性がある感染症です。この病気の予防には「かからない」「うつさない」という気持ちがとても大切です。早めに接種をして予防に努めてください。

市では、妊婦や子ども、高齢者に対してインフルエンザ予防接種にかかる費用の一部を助成します。詳しくは、広報と一緒に配布したチラシをご覧ください。

円高齢者

健康介護課 TEL 22-68308

妊婦・子ども

子育て支援課 TEL 22-68309



この冬は
コロナとインフル
気をつけて



ロタウイルス感染症予防接種が10月1日から無料になります

令和2年10月1日からロタウイルスワクチンの定期接種が始まります。

ロタウイルスワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防します。対象者は早めに接種しましょう。

子育て支援課 TEL22-6839

ロタウイルス胃腸炎ってなに？

ロタウイルスは、乳幼児にみられる胃腸炎の主な原因です。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎による入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染したときは、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響を及ぼすこともあり、注意が必要です。

ワクチンを接種することで、下痢や嘔吐を防いだり、軽くしたりして重傷化を防げますので、早めに接種しましょう。

対象者

令和2年8月1日以降に生まれた子ども

※8月1日以降に生まれた子どもでも、9月30日までは任意接種となり費用がかかりますので注意してください。

※令和2年7月31日以前に生まれた子どもは、令和2年10月1日以降に接種しても任意接種となります。

ワクチン

ワクチンは2種類あり、どちらも飲むワクチンです。予防効果や安全性に差はありませんが、ワクチンの種類によって2回接種または3回接種となりますので、他のワクチンとの接種スケジュールなどを考慮して選択してください。

ワクチンを接種できる期間は短く、他のワクチンの接種と重なる時期にもなるため、子どもが生まれたらできるだけ早めにかかりつけの医療機関に相談し、ワクチン接種スケジュールを立てましょう。

ワクチン名	ロタリックス(1価)	ロタテック(5価)
接種時期	出生6週0日後から24週0日後	出生6週0日後から32週0日後
	※初回は、生後2カ月になった日から出生14週6日後までに接種	
接種回数	2回	3回
	27日以上の間隔をあける	
接種後、特に注意すること	接種後(特に1~2週間)は腸重積症の症状に注意し、症状が見られた場合は速やかに接種した医療機関を受診してください。	

腸重積症について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み閉塞状態になることです。0歳児の場合は、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気で、もともと3~4カ月齢くらいから月齢が上がるにつれて多くなります。

腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後早く治療すればほとんどの場合手術をしないで治療できます。次のような症状に気づいたら、速やかに接種した医療機関を受診してください。

1. 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
2. 嘔吐を繰り返す
3. ぐったりして顔色が悪くなる
4. 血便が出る

